

(I)

水稻農耕と金属器の使用を特徴とする文化が大陸から九州北部に伝わり、北海道・南西諸島を除く日本列島各地に広がった。こうして成立・普及した弥生文化は、縄文文化や北海道の続縄文文化・南西諸島の貝塚文化が食料採集段階であるのに対し、食料生産段階の文化であった。穂摘み用の石包丁など大陸系磨製石器が使用され、青銅器は主に祭器として使用された。鉄器は工具のほか、鋤・鍬の刃先につけられるなど農具として使用された。(200字)

(II)

貴族・寺社への国の給付が滞り、また御願寺が盛んに造営され運営財源確保の必要が高まると、朝廷は開発領主が寄進した私領を核とする広大な土地を荘園として設立することを認めた。院・摂関家などが立荘を主導して本家に、本家と開発領主を仲介した貴族が領家になる一方、開発領主は荘官に任じられた。荘園領主は耕地や集落・山野河海を領域的に支配し、不輸・不入の権も与えられ、国衙の干渉を受けず土地と荘民を独自に支配した。(200字)

(II) 【別解】

土地の開発を進めた開発領主が、受領の徴税攻勢を免れるため所領を中央の貴族・寺社に寄進することで荘園が成立した。開発領主は荘官に任じられて実質的な土地支配権を確保し現地を管理する一方、寄進を受けた貴族・寺社は荘園領主である領家・本家の立場から年貢・公事などを取得するとともに、その権威を背景に租税免除を認める不輸の権や検田使などの立ち入りを拒む不入の権を朝廷から獲得し、荘園支配の独立性を強めていった。(200字)

(III)

直轄鉱山での金銀産出量減少による収入減に加え、徳川家綱期に発生した明暦の大火後の江戸復興費や寺社造営の出費による支出増の結果、幕府財政は逼迫していった。こうしたなか、勘定吟味役荻原重秀の提案にもとづき、慶長金銀より金銀含有量を下げた元禄金銀が鑄造され、改鑄差額で生じる利益の獲得が図られた。この結果、収入が増加して財政は一時的にうるおったが、貨幣価値の下落により物価が上昇し、人々の生活が圧迫された。(200字)

(IV)

江戸幕府は、日米和親条約で片務的最恵国待遇、日米修好通
商条約で領事裁判権や協定関税制を認めるなど諸外国と不平
等条約を締結した。明治政府は当初、税権回復を優先したが、
イギリスなどの反対により挫折した。その後、法権回復が優
先されるなか、ロシアの東アジア進出を警戒したイギリスが
日本に接近して日英通商航海条約が締結されるなど、領事裁
判権の撤廃と最恵国待遇の双務化が実現し、日露戦争後には
税権も完全回復した。(200字)